

日看協発第 347 号  
令和 2 年 11 月 25 日

厚生労働省老健局  
老人保健課長 眞鍋馨殿

公益社団法人 日本看護協会  
会長 福井 トシ子



## 令和 3 年度介護報酬改定に関する要望書(その2)

看護小規模多機能型居宅介護(看多機)の利用者は要介護 3 以上が約 6 割、認知症高齢者自立度Ⅱ以上が約 9 割、独居者が約 3 割を占めており、医療・介護ニーズを併せ持つ中重度者の在宅療養や看取りを支えるサービスです。

看多機では、利用者の状態に合わせ柔軟に通い・泊まり・訪問を組み合わせるサービス提供体制と、看護職員のアセスメントにもとづく看護と介護の協働により、ADL の自立支援や重度化防止のケアを実施しております。日本看護協会はこの度、全国訪問看護事業協会の協力を得て、看多機事業所における褥瘡の治癒・改善や、食事や排泄などの ADL 向上の取組状況について緊急調査を実施いたしました。【別添 1 参照】

在宅療養者の自立支援・重度化防止を推進する観点から、看多機におけるこれらの取組について次期改定で評価することを要望いたします。

### <要 望 事 項>

看多機において自立支援・重度化防止の効果が認められている褥瘡マネジメント、排せつの支援、口腔機能向上や栄養改善の取組について、加算により評価すること

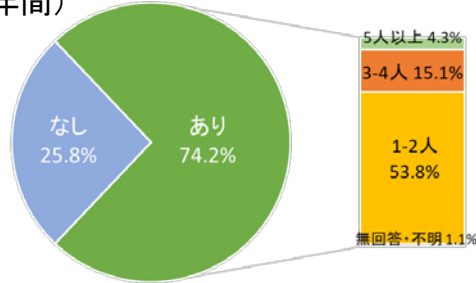
# 看護小規模多機能型居宅介護における自立支援・重度化防止の実施状況

【看多機事業所へのアンケート調査まとめ】

- 実施主体: 日本看護協会
- 調査対象: 全国訪問看護事業協会会員の訪問看護ステーションに併設する看多機事業所 (n=232)
- 調査時期: 2020年10月
- 調査方法: 調査票のFAX配信・回収
- 回収率: 40.1% (n=93)

## 1. 褥瘡の治癒または改善

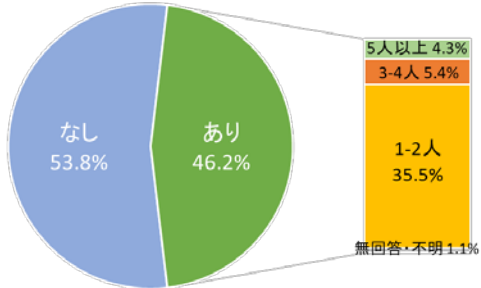
■褥瘡ケアにより褥瘡の治癒又は改善がみられた利用者 (過去1年間)



- 看多機の利用開始時に褥瘡があり、看多機での褥瘡ケアにより治癒又は改善がみられた利用者がある事業所が74.2%
- 排泄の自立支援や、経口摂取に向けた支援により、状態が改善した利用者がある事業所も50%近くに上る

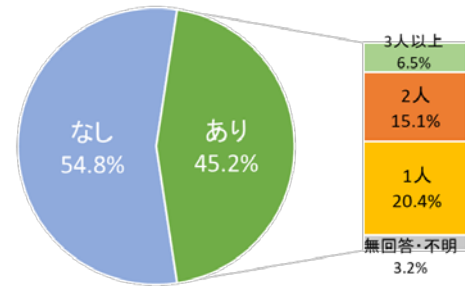
## 2. 排泄自立支援による効果

■おむつが不要になった・又は枚数が減った利用者 (過去1年間)

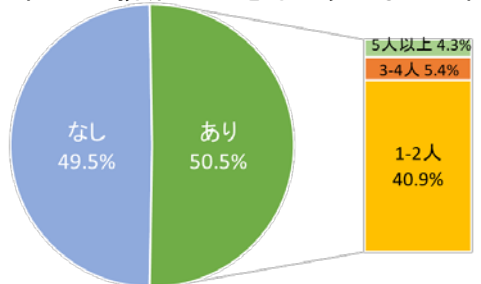


## 3. 経口摂取支援による効果

■経口摂取に向けたケアにより状態の改善がみられた利用者 (過去1年間)



■トイレで座位での排泄ができるようになった利用者 (過去1年間)



■状態改善の内容 (複数回答) ※上記で「あり」と回答した事業所n=42対象

	事業所数	割合
胃ろう→完全経口に移行	8	19.0
胃ろう→経口摂取を併用	24	57.1
経鼻・経管栄養→完全経口に移行	8	19.0
経鼻・経管栄養→経口摂取を併用	7	16.7
IVH→完全経口に移行	5	11.9
IVH→経口摂取を併用	3	7.1
その他	6	14.3
計	42	100.0